

令和6年度 第1回 ネイパル森運営協議会

議事録

* とき／令和6年11月28日（木）

午後13時30分～15時30分

* ところ／ネイパル森 中研修室

【出席者】

委員 5名／須藤 智裕 (森町教育委員会社会教育課長)
西尾 聰 (森町立鷺ノ木小学校校長)
鍋谷 雪子 (株式会社 nabeya)
小出 政彦 (八雲町地域子ども会育成連絡協議会)
事務局 2名／小野 俊英 (所長)
川崎 伸也 (オブザーバー道教委社会教育主幹)

【欠席者】

委員 2名／山口 敏男 (全国林業研究連絡協議会常任理事)
佐紺 摂子 (北海道森高等学校長)
丹嶋 真由子 (森町社会教育委員) 当日急遽欠席

1 開会 <進行／事務局>

2 会長・副会長選出

- 委員の変更がないことから、昨年度同様で確認された
- 会長 西尾委員 、 副会長 須藤委員

3 報告事項<進行／委員長>

(1) 上半期利用状況及び収支状況について

令和6年度上半期（4から9）の利用状況と収支状況について事務局から説明を行った。

<主な説明内容>

- 6月～8月は昨年に比して利用者が減少し、上半期は-365人となったこと
- 人数減少の中にはバスが確保できない。夏の暑さを避けたなどの団体理由がある
- 人数は減少しているが団体数は増えている
- 収支は昨年に比して全体で60万円ほどの減となっている
- 利用者像への取り組みとして、チラシの配架、管内社教主事会との連携、魅力的な事業実施な活動プログラムの見直しのほか、森町の行う合宿への補助なども活用している

<質問>

Q1 学校以外の成人等の利用数はどのような傾向か

A1 学校以外の利用数はほぼ横ばいである。

<意見>

- バス借上げ代金の高騰は大変であると聞いている。見積もりも倍近くなっている。そもそもバスが無いという状況もあるようだ。
- 家族団体等の活動支援で個別の対応が必要になってしまったため、時間を指定して

- 複数団体を指導する工夫をしている施設があるので参考としてみてはいかがか
- 学校が夏休みを延長し家族で旅行するなどの行動が増えていると感じる。利用者減にはこうした要因もあるのではないか。
 - 自身が関わる子供向け事業でも、コミュニケーション能力が結果に大きく影響する事実がある。大人でもこうした活動は活用できるのではないか。
 - 会社の研修でチームビルディングが有効だと感じる。アプローチ先として同友会等の団体などはいかがか。ただし、アクティビティを企業向けにアレンジすることや利用の規定に幅をもたせるなどの対応は必要となる。

(2) 上半期主催事業及びその他について

上半期の主催事業の概要とその他の取り組みについて、事務局から説明を行った。

- 体育館の雨漏りは工事が終了したこと
- 熱中症対策で排煙窓に網戸を付ける予算がついたこと
- 光熱水費・人件費が大きく変動した場合に負担金の額を調整できる協定書の変更があったこと
- 八雲町ツバメ工業株式会社社会貢献事業で駐車場ライン等を整備いただいたこと
- 宿泊税の導入について本施設も対象となる可能性が高いこと

＜意見＞

- 宿泊税については、1万円と数百円のこの施設と額が同じというのは違和感を感じる。

3 協議事項＜進行：委員長＞

(1) 下半期の取り組みについて

下半期の主催事業（終了事業あり）と利用者獲得の取り組みについて事務局から説明を行った

- 八雲町教育委員会との連携でバブルボールや写真と歴史を組み合わせた事業を実施した。
- より多様な利用者獲得を狙い、コスプレイヤーなども視野に入れた事業実施に挑戦したが、断念した。引き続き、写真館との連携事業を調整中である。
- 冬の自然を活かした事業を七飯スノーパークの協力により実施する
- 「創造」をテーマに、料理を作ることや遊び・遊び道具を自ら作ることなどを組み入れた事業を実施する。
- 下半期の利用者増の取り組みとして、管内PTA研究大会等でのPRを行うことや土日のスポーツ団体へのPRを強化する

Q1 自分の団体では、事業のライブ配信が好評だが、こうした取り組みも良いのではないか。

A1 特に子供向け事業では、事業後に親子で事業の内容について会話が生まれることも期待しているため、あえてホームページ等での紹介を遅らせているなどしているところがある。しかし、指摘のように、事業の一部分を参加者の保護者等に公開することは広報の効果としても期待できることから、今後検討する。

Q1 動画配信を行うとのことであったが、その状況はいかがか

A1 動画は、事業の報告を中心に19コンテンツをアップロードしている。今年は、施設の利用方法についての動画を加えた。今後は、体験活動のヒントとなる動画掲載も行う予定。今年、退職者が出了ため、更新頻度が落ちている。今後、速やかな更新に心がける。

＜意見＞

- コスプレイヤーなども新規開拓の視野に入れているとのこと。取り組みの努力を感じる。
 - コスプレイヤーに関しては、個ではなく団体とのつながりを持つと実現できる可能性がある。森町でも、まつり実施に関して人脈があるので、次回取り組み機会があれば、何かしらの情報提供は可能である。
- ・下半期の取り組みについては、提案のとおり承認された。

（2）来年度の方向性について

現時点での見込みとして、次のとおり、事務局から提案を行った。

＜事業関係＞

- 主催事業は、利用希望の多い繁忙期をさけ、4から6月と9月以降の閑散期を中心に実施する。
- 熱中症防止の観点から、来年度の7月、8月の事業を見合わせる
- 道教委が進める「防災関連事業」はコア事業として引き続き内容を工夫して実施する。
- 新規利用者開拓のコア事業として3年実施した大人向け事業は、一定の分析を終えたため、次年度は内容を再検討して新たな事業を組み立てる。内容は道教委駐在職員が中心となって進める。

＜経営関係＞

- 食材料費及びパート人件費の値上げが顕著であり、食事料金について、今年度の収支の見通しを勘案して、価格改定について検討する
- 1施設使用料について、道の定める条例の料金が改定されており、今年度の収支の状況を勘案して、価格改定を含めて検討する。

Q1 現状利用者の満足度はどうなつか

A1 アンケートからは90%以上が満足と回答をしている。

Q2 利用者が減っていても団体が増えているとのことだが、何が具体的に大変なのか。

A2 団体の人数の多少にかかわらず、事前の調整や準備、当日の対応の労力は大きく変わらない。団体数が増えれば、こうした対応により多くの時間が必要になる。

＜意見＞

- サービスをどこまで行うのかにもよる。サービスと価格のバランスを考えることはとても重要。教育施設といえども、コスト感覚は必要で過重なサービスは好ましくない。サービスに見合った価格設定は必要と考える。
- 何がサービスなのかをしっかりと説明することも大切。普段行うことのない布団のたたみ方をしっかりと教えるということも、教育施設としては立派なサービス

である。

- 利用者にとって安価なことは喜ばれることであるが、現状を勘案して、改定が必要な状況だと判断する。
 - ・ 来年度の方向性の事業関係は、説明のとおり了承を得た。利用料金及び食事料金の改定については、現状を鑑み、やむなしとして承認された。

すべての議事が終了し、西尾委員長の議事進行を終了する。

以上をもって、令和6年第1回運営協議会を終了し、解散する。